

防災ジュニアリーダー認定講座



【初級】

元宮城県立石巻西高等学校長の齋藤幸男先生による避難所運営ワークショップを開催。行政や教員グループとアイデアを出し合います。避難所における共助について、子どもたちの柔軟な発想は、大人を驚かせることも珍しくありません。

【上級】

大川小学校をはじめ震災遺構を訪問します。現地の方、一人ひとりの東日本大震災に触れるとともに、当時の小中学生の共助の行動を知ること、自分たちにできることを再度、考えるきっかけとなりました。



大学生・高校生が企画運営！ ユース防災プロジェクト



南あわじ市と連携する高校・大学の学生を中心に学生発の新たな防災教育のかたちを模索し、フォーラムの企画・運営を進めます。本プロジェクトを通し、多世代による防災教育意識と社会参画意識の向上を目指します。

今年度からは、市内の総合防災訓練に位置づけ、取り組みが新たな展開へ進展しています。



南あわじ市防災どころく

地元高校生による防災 ワークショップの開催

県立舞子高校による出前授業を学期に2校ずつ（年間6校）開催してきました。同世代の姿に刺激を受けた淡路三原高校の生徒会が、市内の小中学校で同様に防災学習のワークショップを開催させてほしいと市に要望したことで、企画が実現されました。令和6年度も引き続き開催を予定しています。

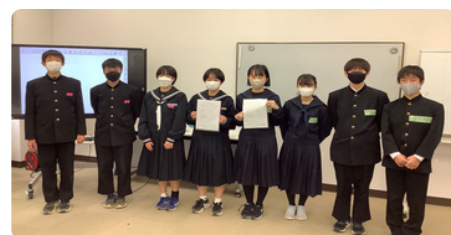
南あわじ市 防災ジュニア リーダー育成 特 集



小学生を対象とした防災WSに挑戦

地域総合防災訓練で 地元の子どもたちが活躍

津波想定範囲にない内陸部では、防災意識が高まりにくいという課題を知った子どもたち。そこで昨年度は、内陸部の学校の児童が「自分たちにできることは何か？」を一生懸命考えました。隣三件の家庭に声掛けをし、想定よりも200名も多くの方々が参加したのは、まぎれもなく子どもたちの活動によるものです。このように多世代が関わる防災訓練が、地域の防災意識の向上に寄与するのではないかと注目が集まっています。



防災パートナー協定の 締結



中学生が中心となって、適正規模の学校相互でパートナーシップを結び、緊急時や災害時等で、支援を要する事態が生じた場合に、各校がそれぞれの役割を果たし、積極的に支援や共助ができるよう防災協定を締結。近年では、トルコやトンガ、能登半島地震復興支援募金を実施しました。

銀サケ食べて被災地思う

平成29年度より宮城県南三陸町から仕入れた銀サケを学校給食に提供。園児、児童生徒たちに給食を楽しんでもらうとともに、南三陸町の復興支援の一助の取組として実施しています。宮城教育大の武田真市特任教授によるオンライン防災学習を受け「この社会とともに生きるとはどういうことか」ということを考える機会となっています。



防災教育協定校

兵庫県立舞子高等学校
Hyogo Prefectural Maiko High School

兵庫県立淡路三原高等学校

国立大学法人 宮城教育大学

国立大学法人 兵庫教育大学

国立大学法人 鳴門教育大学

防災教育を支える応援団



齋藤 幸男

元宮城県立石巻西高等学校校長



佐藤 敏郎

大川伝承の会協同代表



武田 真一

311いのちを守る教育研修
機構統括プロデューサー